



日本触媒

株式会社日本触媒 個人投資家様向け説明会

2023/1/13

コーポレート・コミュニケーション部 西川

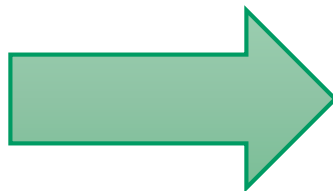
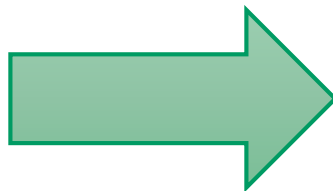
目次

1. 実はすごい化学！
2. 会社概要
3. 主力製品 高吸水性樹脂
4. これからの日本触媒
新規製品・新規事業への取り組み
環境対応への取り組み
5. 業績概要
6. 株主還元

50年前



現在



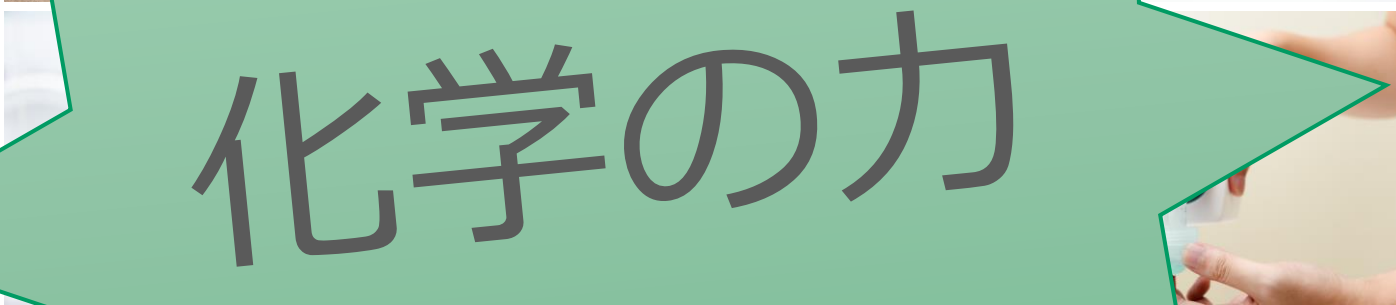
50年前



現在



化学の力



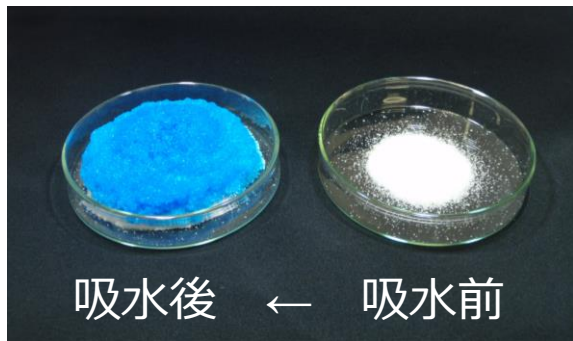


紙おむつは、高吸水性樹脂のおかげで急速に普及。

高吸水性樹脂は、吸水性、保水性に優れ、たった1gの樹脂でおよそ100～1,000gもの水を吸い取ることが可能。

日本触媒は高吸水性樹脂の
世界トップメーカー。

世界の紙おむつの約1/4が日本触媒の製品を使用していることになる。（当社調べ）





コンパクト化

高性能化

日本触媒が工業化した洗浄成分
「ソフタノール®」が衣料用液体洗剤の
高性能化・コンパクト化に貢献。

「ソフタノール®」の特長

1. 低粘度で取り扱いやすい
2. 溶解性に優れていて、低温でも高い洗浄力がある
3. 良好な生分解性により、排水処理が簡単



私たちは、たゆむことなく挑戦を続け、
様々な分野に素材を提供しています。

- ・ 生活消費財・建材分野
- ・ 環境分野
- ・ ライフサイエンス分野
- ・ エネルギー・資源分野
- ・ 情報ネットワーク分野





自動車塗料
(アクリル酸特殊エステル、
メタクリル酸特殊エステル)



**コンクリート
混和剤用ポリマー**
(アクアロック®)



台所用洗剤
(ソフタノール®、
エタノールアミン)



**フラットパネル
ディスプレイ**
(アクリキュアー®、
アクリビュア®)



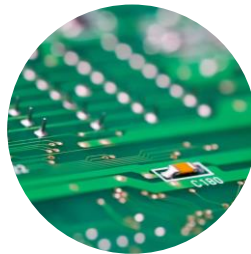
ゴルフボール
(アクリル酸金属塩)



粘着剤
(アクリル酸エステル)



自動車触媒



プリント配線基板
(シーホスター®)



塗料
(アクリル酸エステル)



ペット樹脂
(エチレングリコール)

会社概要

創業

1941年8月

資本金

250億円

2022年3月末時点

従業員数

4,526名

2022年3月末時点

グループ会社数

44社

2022年3月末時点

売上収益

3,693億円

2021年度

**海外売上
収益比率**

56.9%

2021年度

時価総額

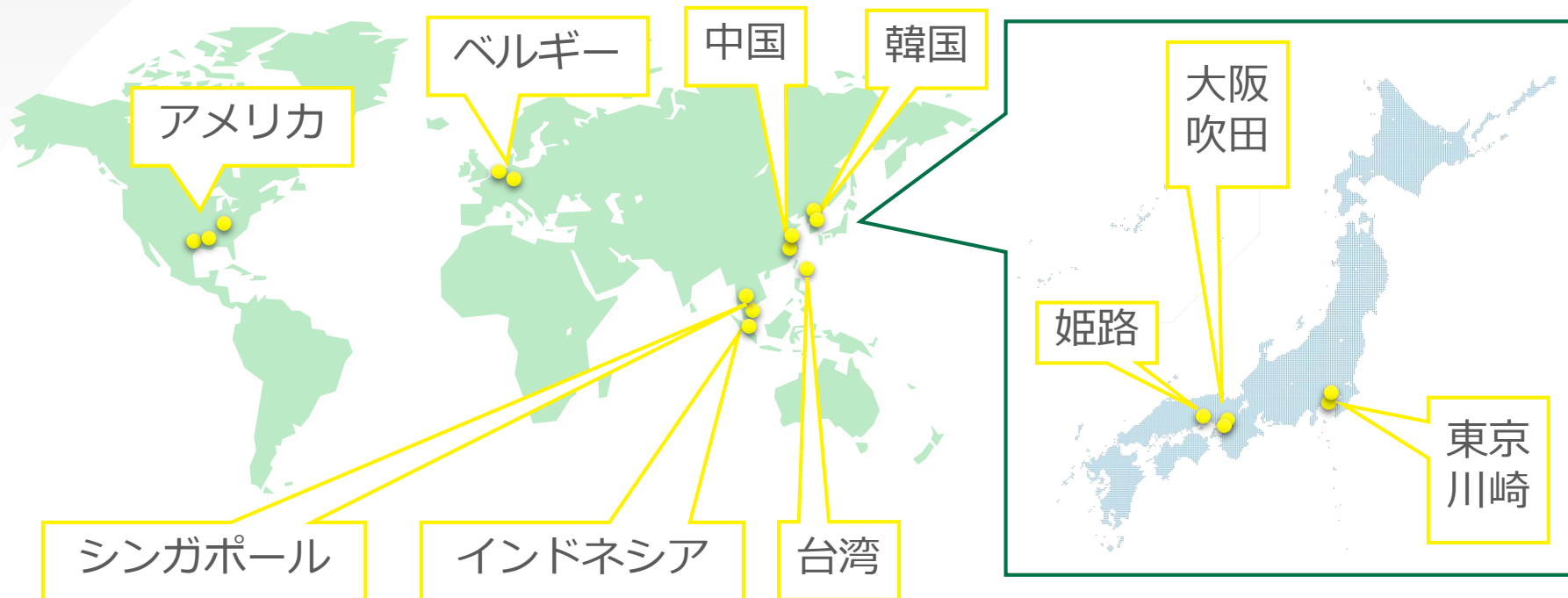
2,248億円

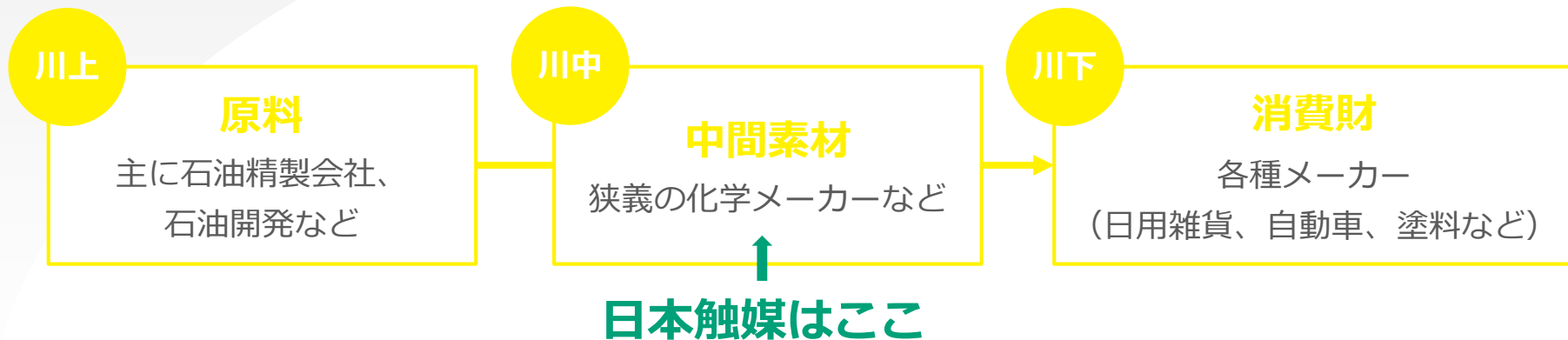
2022年12月1日時点



代表取締役社長
野田 和宏

事業所





<例> アクリル酸



プロピレン



アクリル酸



塗料、粘着剤

川上

原料

主に石油精製会社、
石油開発など

川中

ここで触媒！

触媒とは、化学反応を効率良く、
低コスト・低エネルギーで進ませる
働きを持つ物質。

社名「日本触媒」には、触媒を自ら
開発し、その性能を磨き上げてゆく
ことで発展しようとの想いが
込められている。

<例> アクリル酸



プロピレン



アクリル酸



塗料、粘着剤

日本触媒グループ企業理念

TechnoAmenity

私たちはテクノロジーをもって
人と社会に豊かさと快適さを提供します



日本触媒の発展の礎となったのは、「炎の経営者」こと2代目社長 八谷 泰造（やたがい たいぞう）が決断した石油化学工業への挑戦。

自社独自の技術にこだわり、“先見性のあるチャレンジ精神”により日本触媒は他社にはない独自の技術で、世の中にはない新たな価値の創出を目指している。



2代目社長
八谷 泰造



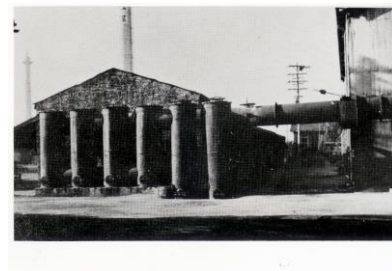
『炎の経営者』
高杉良 著
八谷泰造が主人公
の実名経済小説

1941

日本初

無水フタル酸の工業化に成功

日本で初めて無水フタル酸の工業化に成功。
塩化ビニル工業の発展に貢献した。



1959

日本初

酸化エチレンの工業化に成功

日本初の純国産技術による酸化エチレンの工業化に成功し、日本の石油化学工業の発展に貢献。



1970

世界初

アクリル酸の新製法を開発

低コストかつ大規模でのアクリル酸製造が可能に。
世界のアクリル酸メーカーで製法が採用される。

1985

高吸水性樹脂の大規模生産に成功

技術・生産ともに世界をリードし、人々の生活の質向上に貢献している。



2006

世界初

アクリビュア®の商業生産を実現

光学フィルム用アクリル樹脂「アクリビュア®」を企業化し、液晶ディスプレイの高性能化に貢献。



2013

世界初

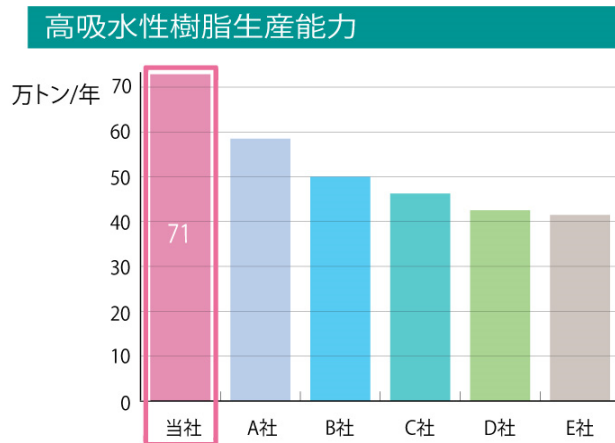
イオネル®の工業生産プロセスを確立

「イオネル®」はリチウムイオン電池の電解質として使われ、次世代電池への貢献が期待されている。

主力製品 高吸水性樹脂

世界をリードする生産能力

- ・ 世界**1位**※（71万トン/年）
- ・ 世界の紙おむつの約**1/4**に
日本触媒の製品が使用されている



※当社調べ

拡大する市場

- ・ 新興国で赤ちゃん向け紙おむつの
需要増加
- ・ 先進国では大人向け紙おむつの
需要増加
- ・ 年率3-5%で市場拡大

①研究開発力の高さ

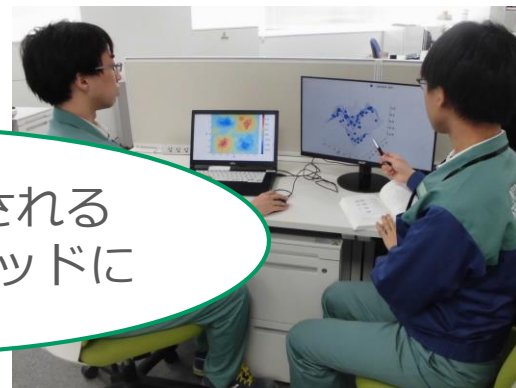
②原料からの一貫生産

③グローバルな生産体制

研究開発の迅速化

- ・ データサイエンスを駆使し、
開発期間を従来の約半分に短縮

速乾性が重視される
大人用尿漏れパッドに



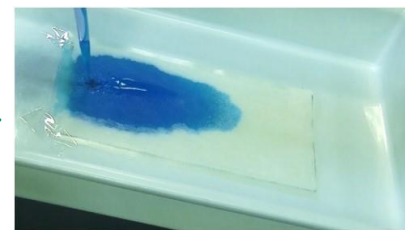
高吸水性樹脂の高付加価値化

- ・ 速乾性に優れる高吸水性樹脂
- ・ 吸収量や吸収速度などを従来比
10%以上高めた高吸水性樹脂

赤ちゃん向け
紙おむつに



従来品

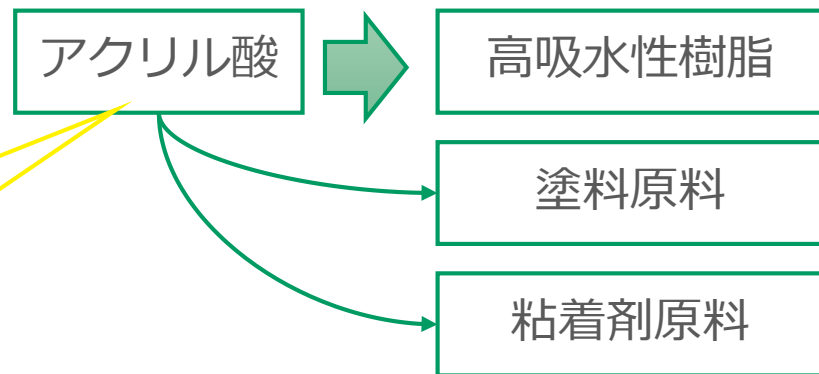


新規開発品

- 原料であるアクリル酸からの一貫生産により安定供給・低コスト化を実現
- 国内1位※、世界4位※（88万トン/年）
※当社調べ
- 現在インドネシア拠点で10万トン/年設備を増設中、2023年春商業運転開始
- 高吸水性樹脂以外にも利用、アクリル酸自体も販売



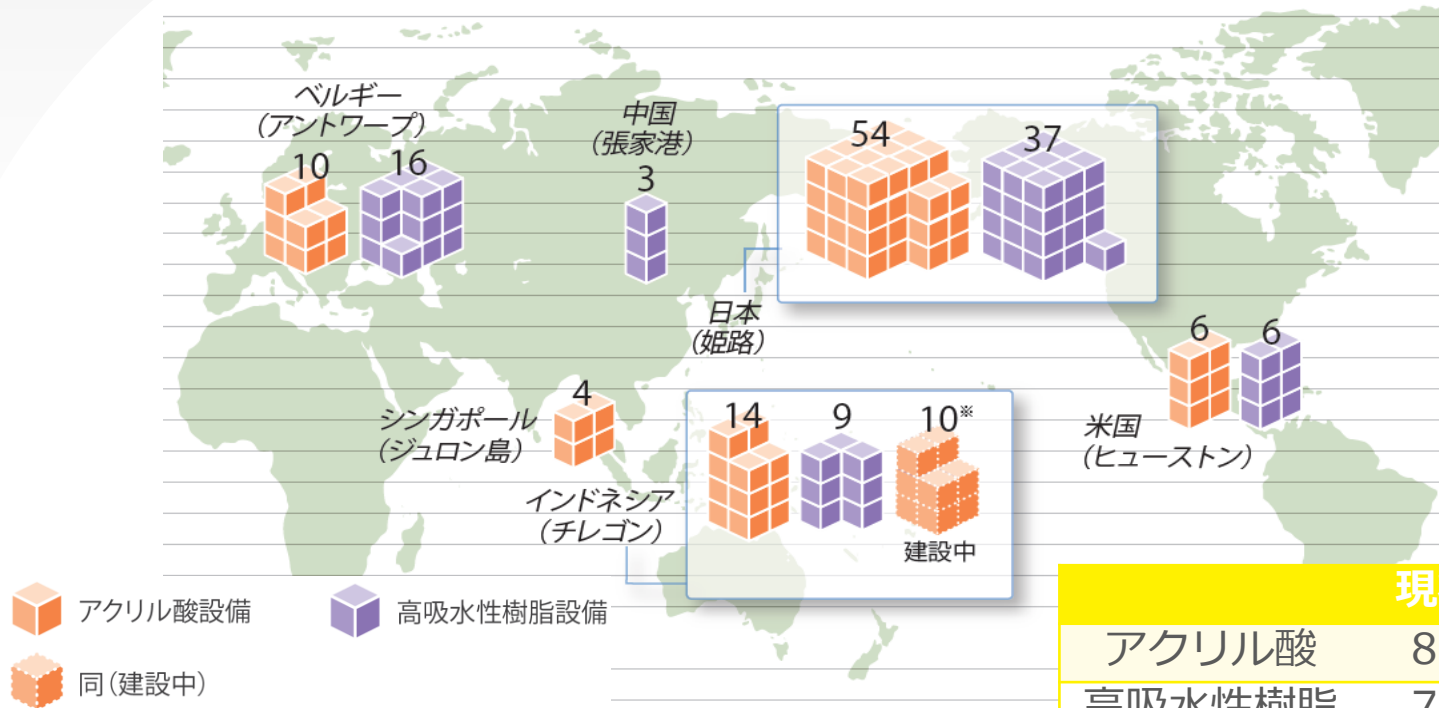
姫路製造所
アクリル酸プラント



アクリル酸も世界に
先駆けて自社技術で
生産！

その他にも

グローバルな生産体制を構築し、世界規模での安定供給を実現



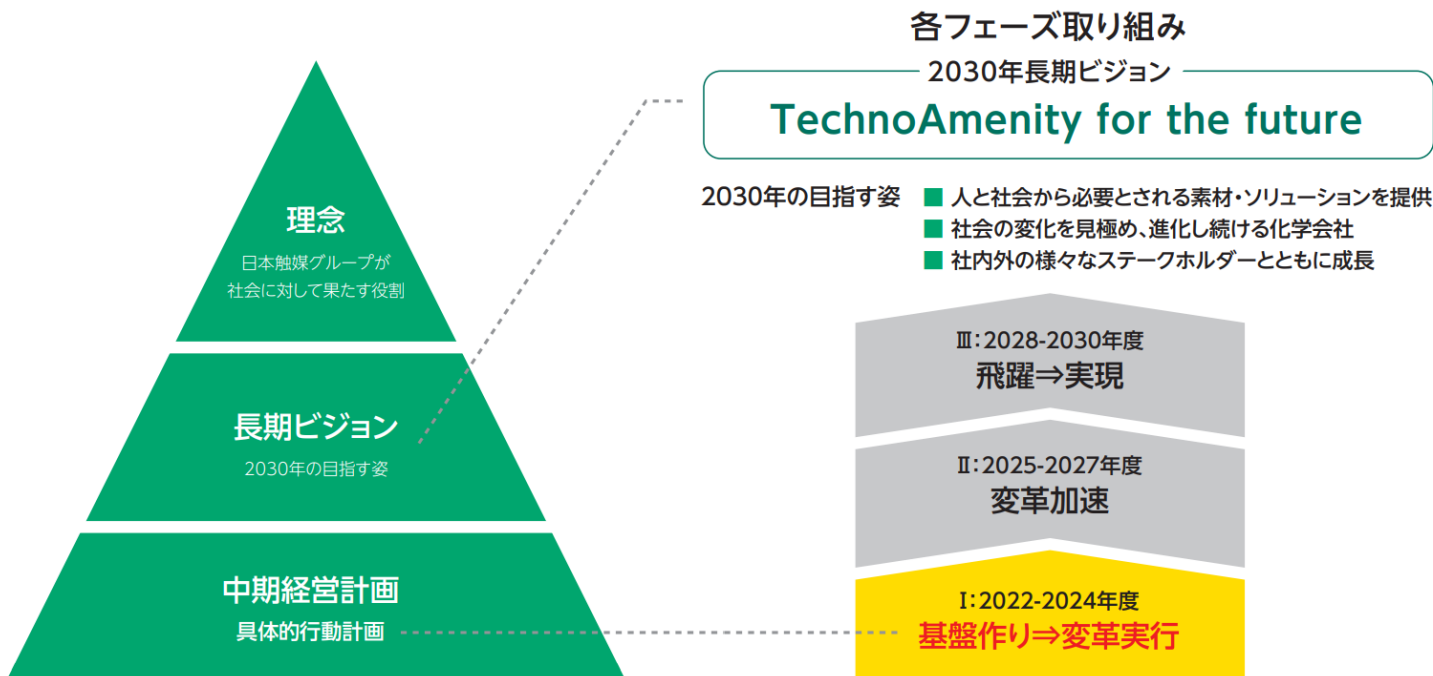
数字は生産能力(万トン/年)

	現状	建設中	合計
アクリル酸	88	10*	98
高吸水性樹脂	71	-	71

※2023年春商業運転開始予定

これからの日本触媒 新規製品・新規事業への取り組み

長期ビジョンにおける、2030年の目指す姿の実現に向けて、2022－2024年度
中期経営計画「TechnoAmenity for the future- I」を策定しました。



1

事業の変革

既存分野から
成長分野への
ポートフォリオ変革

2

環境対応
への変革

2050年
カーボンニュートラル
実現に向けた
サステナビリティ推進

3

組織の変革

成長し続ける組織、
多様な人財が
いきいきと働く
会社への変革

- ・ 顧客提案力を強化
 - ・ 注目市場へリソースを投入
- ⇒ 「ソリューションズ事業」の拡大

マテリアルズ事業

世界中で利用されている化学品を、国内外の拠点で高品質かつ大規模に生産し、グローバルに安定的に提供。

ソリューションズ事業

多様な産業の顧客ニーズに応えるため、研究・開発力を活かして高付加価値の独自の機能を提供。

提案する化学。

化学の可能性は常に無限。

私たちは化学の力で不可能の壁を超え、
かつてないソリューションをお届けします。

日本触媒 

リチウムイオン電池市場

- ・ 欧州、中国中心に電気自動車（EV）向けの市場が拡大
- ・ EV用リチウムイオン電池はスマートフォン向け用に比べ、長寿命化、より過酷な気温条件への対応が要求される



イオネル®の特長

- ・ リチウムイオン電池の電解質として使用することで、リチウムイオン電池の性能向上に貢献
 - 長寿命化
 - より幅広い温度帯への適応

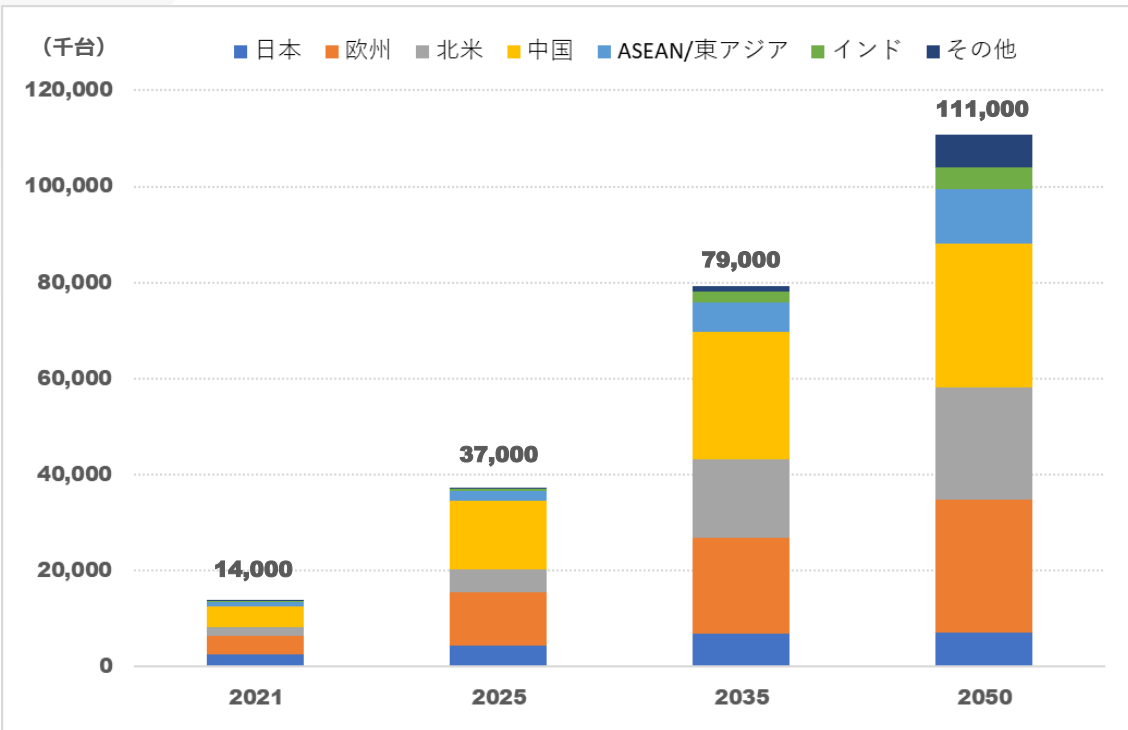


高純度LiFSI

「イオネル®」

リチウムイオン電池市場

■ 電動自動車生産におけるエリア別市場推移



出典元 株式会社経済「エネルギー・大型二次電池・材料の将来展望2022-電動自動車・車載電池分野編-」より当社作成

当社のイオネル®事業

消費地での生産を基本戦略とし、
中国と欧州でそれぞれ展開

■ 中国：LiFSI製造会社に出資

世界第2位のリチウムイオン電池用
電解液メーカーCAPCHEMの子会社に出資
→安定大口顧客を獲得
→世界最大需要地である中国において
生産体制を早期に構築

■ 欧州

フランス大手化学メーカー Arkema S.A.
との合併会社の設立を検討中

VEEA[®]

用途

- ・ 業務用インクジェット印刷のインク材料
- ・ 工場や物流で管理用のQRコード印刷に使用

特長

- ・ UV（紫外線）を当てることで硬化
- ・ 低粘度なため、霧状にして噴射することが可能

AOMA[®]

用途

3Dプリンタ用樹脂の材料

特長

- ・ UV（紫外線）を当てることで硬化
- ・ 従来の3Dプリンタ用樹脂の、硬くしようとすると脆くなりやすい、という性質を改善



化粧品事業の市場

- ・ アンチエイジング、美白、抗炎症
など高機能製品へのニーズは高い
- ・ コロナ禍以降は世界的に需要回復予想

日本触媒の取り組み

- ・ 高機能性素材の研究開発
例) 多機能性ポリマー KPシリーズ
— 抗菌・抗ウイルス性
— 保湿効果
— 化粧品メーカーで採用
- ・ 共同開発・提携



市場環境

核酸医薬品やペプチド医薬品は、次世代医薬品として期待されており、高い市場成長率が見込まれている。



日本触媒の強みと取り組み

- ・ 核酸医薬品は高度な合成・分析技術が必要
→日本触媒の技術と経験が活かせる
- ・ 国内有数の中分子原薬合成施設建設
2020年 医薬品製造基準を満たす体制を整え、出荷開始
2021年 本格的な営業活動を開始
- ・ 創薬ベンチャーとの積極的な提携

これからの日本触媒 環境対応への取り組み

1

事業の変革

既存分野から
成長分野への
ポートフォリオ変革

2

環境対応
への変革

2050年
カーボンニュートラル
実現に向けた
サステナビリティ推進

3

組織の変革

成長し続ける組織、
多様な人財が
いきいきと働く
会社への変革



日本触媒の生産プロセスのCO₂排出量削減

- 2030年に2014年比CO₂排出量30%削減を目指す

サプライチェーンでの排出量削減への貢献

- 顧客企業の最終製品のライフサイクル全体でのCO₂排出量を削減できる素材・ソリューション提供
- 世界のCO₂排出量を削減できる技術開発

取組事例 1 : 原料のバイオマス化

取組事例 2 : 高吸水性樹脂リサイクル

取組事例 3 : 水素エネルギー関連技術

バイオマス由来高吸水性樹脂

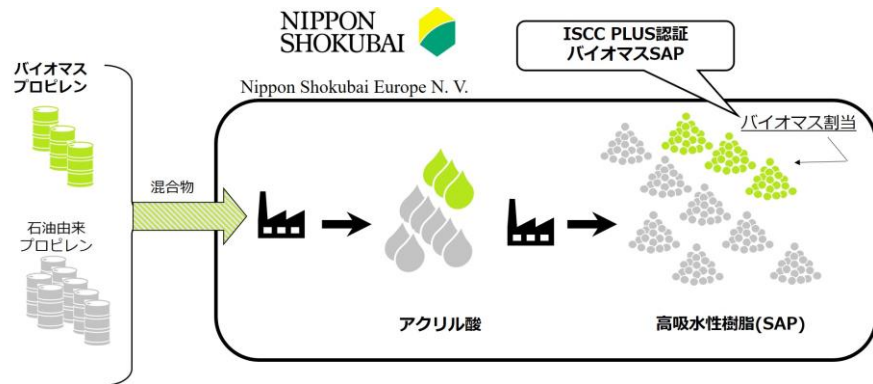
国際持続可能性カーボン認証機関から
バイオマス高吸水性樹脂生産の認証を
取得

バイオ由来エチレン誘導品

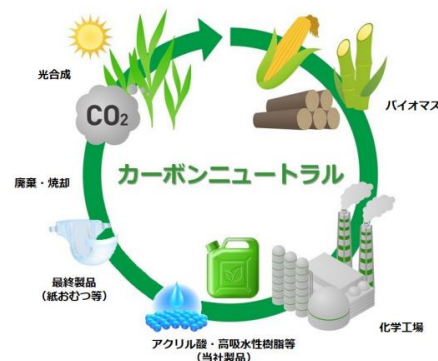
ENEOS、三菱商事と2024年度の
製造・販売を目指し共同調査中

バイオ由来アクリル酸

量産技術開発を行い、2030年までに
商業生産開始を目指す



※ISCC (International Sustainability and Carbon Certification) : 国際持続可能性カーボン認証機関

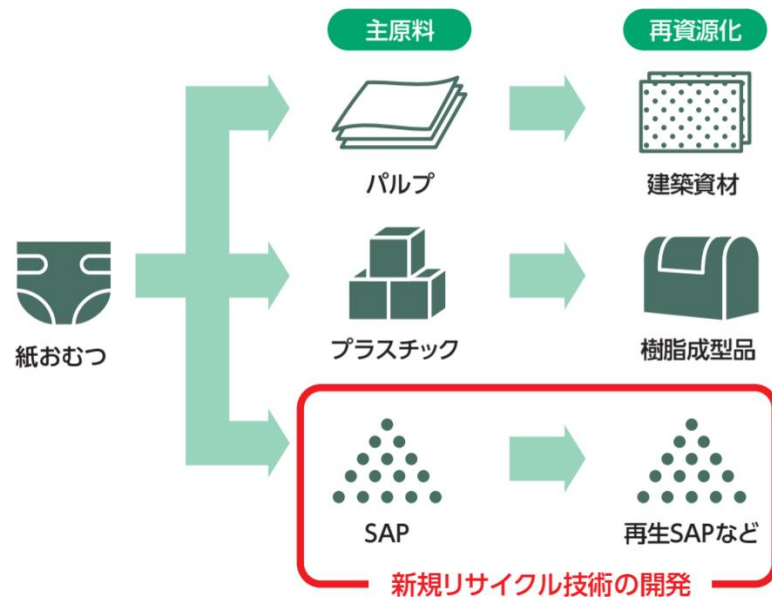


取り組み事例 ②高吸水性樹脂リサイクル

紙おむつは、主に紙パルプ、プラスチック、高吸水性樹脂からできている。

日本触媒は、リブドゥコーポレーション、トータルケア・システムとの3社共同で、高吸水性樹脂のリサイクル技術の開発に取り組んでいる。

今後はこの技術を実用レベルまで高めていくとともに、リサイクルシステムの構築に取り組んでいく。



※SAP：高吸水性樹脂

■水素

酸素と結びつけることでエネルギーを生む
化石燃料とは異なり、CO₂を排出しない

■水素のつくり方

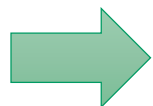
- ①化石燃料を燃焼させてガスにし、
その中から水素を取り出す
- ②再生可能エネルギーなどを使って
水の電気分解で水素をつくる



グレー水素

ブルー水素

グリーン水素



グリーン水素製造に必要な素材、アルカリ水電解用セパレータを開発！

アルカリ水電解用セパレータ

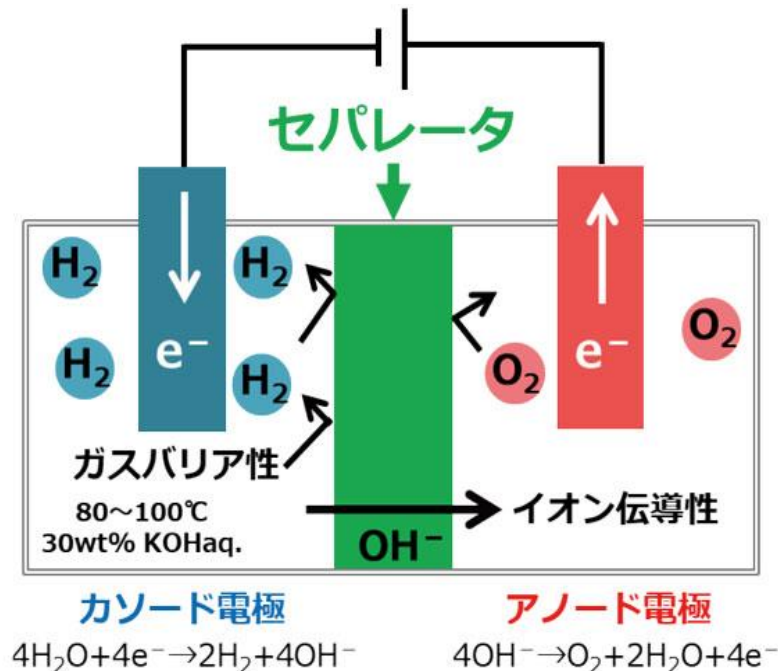
水の電気分解での水素製造に欠かせない部材「セパレータ」。

このセパレータを日本触媒が高性能化し、水素製造効率が大きく向上。

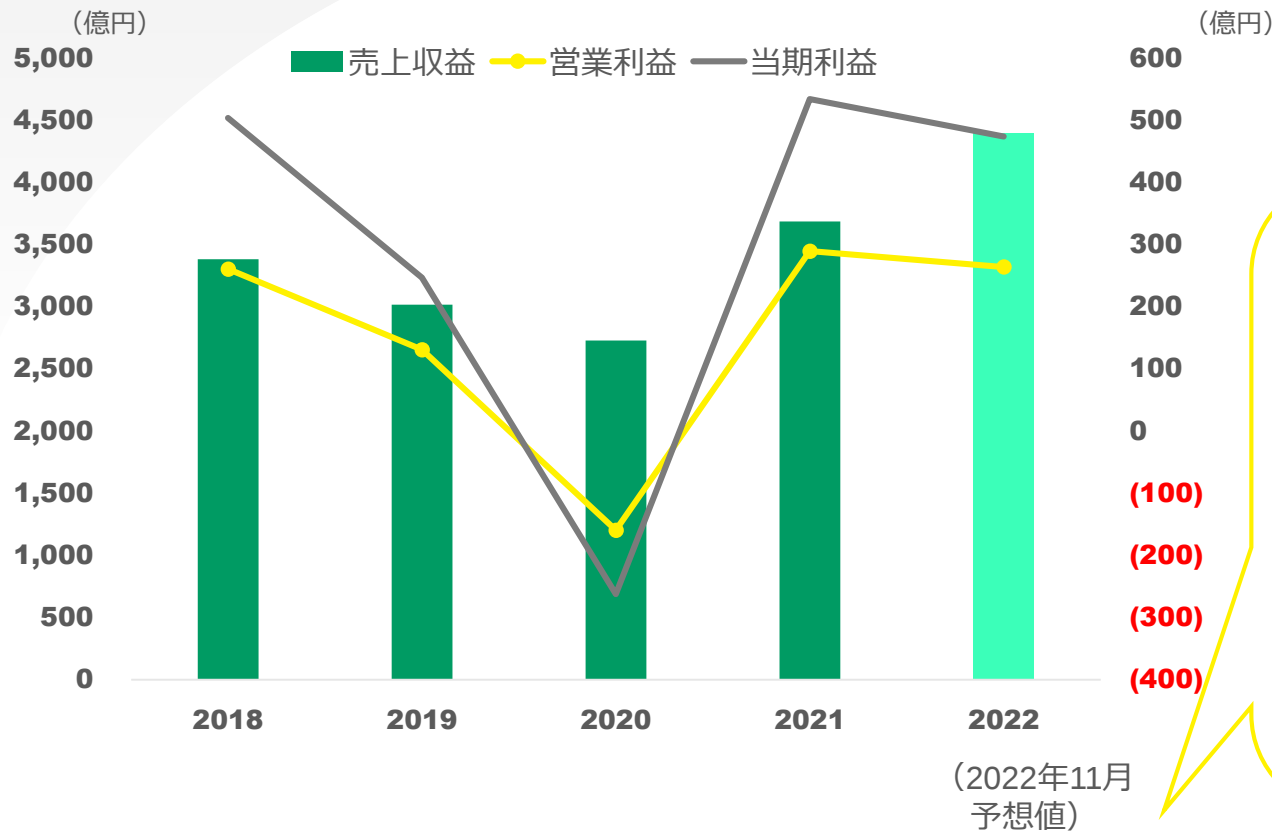
グリーン水素の普及とCO₂排出削減に貢献。

2022年、高圧方式に適した大型アルカリ水電解装置及びセパレータの開発事業がNEDO*事業として採択

*国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構



業績概要・トピックス



2022年度
(2022年11月予想値)

売上収益 4,400億円

営業利益 265億円

親会社の所有者に
帰属する
当期利益 210億円

株主還元

	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022 予想
一株当たり配当 (円)	160	170	180	90	180	180
総還元性向 (%)	28.2	28.4	64.7	—	30.3	48.2

中間配当90円、期末90円（予想）、年間配当180円（予想）

2022年度下期：自己株式30億円を取得予定

総還元性向 50%（配当性向 40%・自己株式取得 10%）を目指す

1. 高吸水性樹脂で世界トップシェア
2. 電気自動車用リチウムイオン電池材料や健康医療事業など新規製品開発・新規事業創出に注力
3. 2050年カーボンニュートラル実現に向けてリサイクル、バイオマス化や水素関連技術に取り組んでいる



本資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的としているものであり 投資勧誘を目的としたものではありません。また、記載されている内容は、資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した内容を含んでおり、記載された内容を確認したり、保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、異なる結果となる場合があります。

お問合せ先：

株式会社日本触媒 コーポレート・コミュニケーション部

東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル

TEL： 03-3506-7605

URL： <https://www.shokubai.co.jp>